

RE:DISCOVER KAMIMICHI

2021
SPRING

VOL.
1

外から見た富山県上市町

再発見。あなたの知らない上市町。



羽岳のふもとのまち
上市町

{RE:DISCOVER KAMIIICHI

VOL.1 外から見た富山県上市町

REPORT
1

「フェールラーベンナイト&絶景トレック」 1

老舗アウトドアブランドと上市町のコラボ企画に潜入レポート。

FOCUS

「風の旅行社」水野恭一さん 4

上市町と旅行者をつなぐ「風の旅行社」水野恭一さんが語る、上市町の魅力とは。

REPORT
2

「御持仏を彫る」仏師・住吉太雲氏の門前工房を訪ねて 5

日頃の喧騒を忘れ無心で御持仏を彫る。参加者の声と仏師の思いを聞く。

REPORT
3

アムチ・小川康さんインタビュー「百葉の不思議な世界 “百葉”特別講座」... 7

独特の語り口で人々を魅了する“アムチ”小川さんの人柄に触れる。

上市町に住んでいる人にも、町外・県外の人にも、
もっと上市を知ってほしい。そんな冊子です。

「フェールラーベンナイト & 絶景トレック」 上市町のコラボ企画に潜入レポート

たり行われた地元参加型のデイ＆ナイトイベント。初日は大岩山日石寺の門前旅館「大岩館」で「フェールランナイト」が開催されました。内容は、フェールラーベンの田口裕子さんと池守隼輔さんがブランドの考え方を取り組み、実際に体験した自社イベントの様子などを映像を元に紹介していくというもの。一方的にお話ししされるものではなく、説明の途中には豪華景品が当たるクイズも出題され、参加者たちは俄然張り切つて話を聞いている様子でした。フェールラーベンにまつわるクイズは全部で4問。全問正解者は出なかつたものの、出題後は正解数の多かつた参加者たちから順番に、フェールラーベンのポーチや非売品キーホルダー、ウォレットなどの景品が提供されました。かくいう私は、まさかの全問不正解。それでも素敵なザックカバーをいただいたので満足極まりなかつたです。

自然の中で楽しみながら
参加者との会話も大切に



始終アツトホームな雰囲気で行われたナイトイベント。終了後には参加者のみなさんもすっかりフェールラーベンの虜になつたことは言うまでありますん。

お居こはんには「華生」の特別弁当が振る舞われ、トレッキングコースを振り返りながらお腹を満たしていきます。一つひとつ丁寧に作られたお弁当のおかずは、ほとんどが上市産の食材とのこと。竹皮で包まれた彩豊かなお弁当は、SNSで自慢したくなるほど美味しいものでした。これを機に、華生さんにもいつか訪れてみたいな。



勢 13名で約3時間のトレッキングを楽しみました。「上市峰窓会」がガイド役となり、田口さんや池守さんとともに千石城山の山頂を目指します。この日はあいにくの曇り空でしたが、剣岳はうっすらと望むことができました。山草木や天然のきのこ、紅葉などを楽しみながら心地良い汗をかきつつ無事にゴールを果たしました。

この後は上市駅へ移動し駅構内の販売会も実施されました。とても濃密な時間を過ごせた2日間。この町が選ばれた理由が、何となくわかった気がします。企画を終えた池守さん、田口さん、上市町の印象はいかがでしたか？



世界的な老舗ブランドが
開催する体験型ツアー



カーブーム」の礎を築いたブランドともいわれています。

「機能的であること」「丈夫で長持ち」「タイムレスなデザインであること」「信頼を裏切らないこと」「使い勝手がよいこと」「厳しい自然に立ち向かえること」。ストイックな企業理念を掲げたフェールラーベンは創業より多くのアウトドア製品を世に出してきました。『北極ギツネのマーク』が入った、四角いリュック』といえばわかる方も多いのではないでしょうか。

そんな世界的な老舗ブランド「フェールラーベン」、実は上市町とともに親密な関係にあつたんです。というのも、画では上市町を目的地としたツアーガ組まれていたり、上市町観光協会と協働でイベントを開催していました。どうして

フ エールラーベン」とい
うブランドを知っていますか？ アルミ製フレームのザックを世界で初めて開発し、大ブームを巻き起こしたスウェーデン発のアウトドアブランドで、のちの「バックパッ

FOCUS

地域と旅行者をつなぐ「風の旅行社」 ツアーコンサルタントの水野恭一さんが語る 上市町の「コア」な魅力とは。

「御持仏を彌る」「百葉特別講座」「靈峰駒岳の麓上市町・絶景トレッキングツアー」など、上市町の「コア」な魅力をパッケージにした企画に6年にわたって関わってきた風の旅行社。あらゆる地域や街の当たり前と思われるがちなコトやモノにスポットを当てながら、旅の中に組み込んでいくオリジナリティある企画が人気の旅行社です。2020年11月、上市町種地区の「白萩南部公民館(休校中の白萩南部小学校)」を舞台に、チベット医アムチ・小川先生の特別講座「キハダワークショップ」と埼玉県の東秩父村在住の西先生の「七味唐辛子ワーケーション」「風の旅行社」水野恭一さんによる、旅の目的地「上市町」の魅力について話をうかがいました。

上市町観光協会の事務局長と上市町を知るきつかの出会いが、上市町を知るきっかけ

水野さんが感じる上市町の魅力
私は東京生まれの東京育ちですが、25歳くらいから20年近く、

上市町の旅を選ぶ人たち
上市町へのツアーパートナーは、日本全国からいらっしゃいます。関東圏、関西圏からのお客様が多く、年齢層は50代から70代が多い傾向ですね。アンケートをとったことはないのですが、関東

人気のワークショップ企画
日石寺のツアーや年配の方が多いですが、アムチ・小川先生の百葉講座などは年齢層が広く下がるんです。薬草自体は知っていたのですが、初めて上市を案内していただいたとき、上そこから先輩を頼りに駒岳へと登りにも来ていました。駒岳山頂からの景色はとても素晴らしいこと

長野県小谷村で宿をやっています。登山が好きだったこともあり、現地の人との絆をとても大事にしているのですが、これまでの事務局長の行動力やセンスを見させていただいているので、「この方なら間違いない」という信頼のもと、企画ができると確信できたんです。その後は観光協会さんの持ち味と私たちの考え方を十分に擦り合わせながら企画を練り上げていきました。こうして「御持仏を彌る」といった企画を行なうようになりました。

今後について
基本的には上市町観光協会と今後も考えを擦り合わせながら企画を練り上げていきたいと思っています。初日の講座と次の日のマッチングをうまく組み合わせることで、宿泊型の企画にもなるので日帰りとは違う楽しみ方も提案できたらいいですね。富山県

風の旅行社とは
ネバールのトレッキング会社設立をきっかけに、1991年創業。その後、チベット、モンゴル、ブータンなどの国々へ広げ、現在は日本を含むさまざまな地域や国のツアーコンサルタントが現地へ赴き下見をして商品(ツアーコンサルタント)を作ること。オリジナリティある旅と徹底した「フルパッケージ」にこだわる。



FJALLRAVEN

田口裕子さん

「初めて来た上市町は、初めての感じがしない風景が広がっていました。近年サステナブル志向が高まる中、60年前からフェールラーベンが取り組んできました。世の中がようやく追いついてきたと感じています。流行っていないことをやり続けるかつて良さをもっと伝えていけるといいます。また最近はアウトドア商品が日常に使われることも多いですが、本来は自然の中で身につけることで機能を発揮するものなんです。商品の生地に山の空気を吸わせると、表情が変わってくるんですよ。私たちは商品のみならず、しっかりと自然の空気を吸える機会も提供できればと考えています。」



「3年前に上市町を紹介してもらったのが、このまちを知ったきっかけです。まちなかを案内してもらううちに『フェールラーベンでツアーワーク組んでみたら楽しいのでは』という案内をしてもらいました。これまでに県外の人を対象としたツアーワークを行ってきたのですが、今回も地元の方向けにアレンジした企画です。地元の人まだ気付いていない魅力を発掘できる内容をこれからも模索していくたいですね。上市町は、なぜかホットとする場所。上市町に多くのフェールラーベンファンを作つていただけるかなと思います。」



日頃の街中の喧騒を忘れる 非日常の時間を楽しむ

「御持仏を彫る」

仏師・住吉太雲氏の門前工房を訪ねて



決めたんです。1度目の参加で仕上げたかったのですが、それはやはり難しかったですね。彫っている時間はすごく集中できるんですよ。荒削りのみを使っての作業ですし、仕上げは刃先を使った細かい作業になります。それぞれの工程はとても難しいですが楽しめました。彫っている最中、隣のお寺の鐘の音が聞こえるのですが、その雰囲気の中に自分がいることも心地よかったです。作業の途中、お寺の奥様がお菓子を持ってきてくれたり、お昼休みに滝行を行ったりと、最初は御持仏を彫ることがメインではありませんでしたが、上市町の魅力を大満喫できていました。毎回、富山の美味しいご飯や地元の人たちと会えることも、このツアーに参加することも醍醐味なのではないでしょうか。」

**田中さんと住吉さんに
日頃の街中の喧騒を忘れ、
自然の中で心落ち着かせながら御持仏を彫るシチュエーションは、まさに非日常の極み。**

泊3日のツアー内では、彫り上げる過程やスピードは個人差があるため一人一人のベースに合わせて住吉さんがアドバイスしてくれます。「3日で最後まで仕上げるのはなかなか難しいです。間に合わない場合、僕が仕上げるか、また上巻へ来ていただかを決めたいのですが、これまで僕の手で仕上げたのは1組だけ。あとはみなさん、何度も足を運んで仕上げていらっしゃいますよ。」と住吉さん。一度スタートを切ると、参加者のみなさんは最後まで自分自身で仕上げたいという気持ちが膨らんでいくようです。

「期間中に彫りきれない人がほとんどなんですね。でも皆さん必ずと言つていいほど『もう一度来ます』と言つて来てくださいました。御持仏を彫るのは自分



いありません。

田中さんと住吉さんに
日頃の街中の喧騒を忘れ、
自然の中で心落ち着かせながら御持仏を彫るシチュエーションは、まさに非日常の極み。

**都会では味わえない環境
来る度に上市町が好きになる**



だけでやろうとする難しいですが、そこは何度も通っていただき仕上げていただくのが一番です。御持仏を彫るという行為 자체はほかの場所でできることですが、日々寺の鐘の音を聴きながら、静かな環境で彫るというのが良いところなのかもしれませんね。」(住吉さん)

私は1度の参加では完成まで彫れなかつたので『次は寒鯉の美味しい時に来ます!』って、いろんなおまけをつけて来ていました(笑)。とにかく上市の、この環境が好きになりました。住吉さんはもちろん、宿泊していた旅館だんごやの女将さん、お寺の奥様にまた会えるのが何よりも楽しみだったのかもしれません。『ただいま!おかえり!』って感覚で、再会した時に皆さんと挨拶できるようになったのも嬉しかったですよ。

自分で彫った御持仏は、存在そのものが愛おしいです。一生大事にできる御持仏と上市の人との出会いはほかのツアーにはない大きな魅力です。」(田中さん)

仏師"長流刀喜十郎、住吉太雲

1976年、上市町生まれ。高校を卒業後、KOBATAKE彫刻工房で美術全般を学び、番匠屋16代目・田村與八郎氏に師事。井波彫刻と同時に富山県技能訓練校でも学ぶ。

5年間の修行を終え、父・聖雲の元で活動。現在は大岩山日石寺の門前で、自身の工房「木彫房太雲」を構え制作を行なう。仏像制作にととまらず、公募展の作品づくりやグループ展にも出展している。



粗彫り、中彫り、仕上げ。

「御持仏を彫る」は6年前より始まった、風の旅行社の人気ツアー企画。大岩山日石寺の門前に工房を構える仏師・住吉太雲さんを講師に迎え、彫刻刀を使って木を彫りながら、自分だけの「御持仏」を完成させることを目的としています。

そもそも「御持仏って何?」という素朴な疑問に、住吉さんは「肌身離さずお守りのような感覺で持てる仏様」とでも言いましょうか。僕としては御持仏であろう何であろうが、仏様は仏様だと思ってます。御持仏は一つの木から仏様を彫っていくのですが、自分自身の手で彫りたいと思う気持ちが大事。自分で作れば作っただけ、その思いは強くなるのでね。」と答えてくださいました。

大阪から何度も御持仏を彫るツアーに参加されているという田中さんにお話をうかがいました。「昔からやりたいなと思ったことは何でもやってみたい性格なんです。風の旅行社のパンフレットを見てこのツアーを知り、すぐ挑戦したいと思いました。『思いを込めていれば、仏様には魂が入るんですよ』と仏師の住吉さんに言われ、絶対に自分の手で最後まで彫ろうと

大

阪から何度も御持仏を彫るツアーに参加されたいなと思ったことは何でもやってみたい性格なんです。風の旅行社のパンフレットを見てこのツアーを知り、すぐ挑戦したいと思いました。『思いを込めていれば、仏様には魂が入るんですよ』と仏師の住吉さんに言われ、絶対に自分の手で最後まで彫ろうと

御持仏を形作るには、大きく分けて3つの工程からなるといいます。とはいえ、あくまでこの3つは「大きく分けた工程であり、その作業内容はとても細かく大変な作業にもなってくるそう。住吉さんの指導のもと、いくつかの彫刻刀を使い分けながら、3日をかけて彫り進めていきます。

「御持仏を彫る」は6年前より始まった、風の旅行社の人気ツアー企画。大岩山日石寺の門前に工房を構える仏師・住吉太雲さんを講師に迎え、彫刻刀を使って木を彫りながら、自分だけの「御持仏」を完成させることを目的としています。

そもそも「御持仏って何?」という素朴な疑問に、住吉さんは「肌身離さずお守りのような感覺で持てる仏様」とでも言いましょうか。僕としては御持仏であろう何であろうが、仏様は仏様だと思ってます。御持仏は一つの木から仏様を彫っていくのですが、自分自身の手で彫りたいと思う気持ちが大事。自分で作れば作っただけ、その思いは強くなるのでね。」と答えてくださいました。

大

阪から何度も御持仏を彫るツアーに参加されたいなと思ったことは何でもやってみたい性格なんです。風の旅行社のパンフレットを見てこのツアーを知り、すぐ挑戦したいと思いました。『思いを込めていれば、仏様には魂が入るんですよ』と仏師の住吉さんに言われ、絶対に自分の手で最後まで彫ろうと

取材を通して（ライター後記）

町のことを知るには町の人聞くのがイチバン！と思うのですが、今回は町の外の視点から見る上市町の魅力に迫ってみました。この冊子を読み終えたとき、これまで当たり前だった町の人の顔や風景、出来事がなんだかとても新鮮で面白く見えてきました。私は取材に来るたびませんでしたか？私は取材に来るたび「富山の、しかも上市町でこんなに魅力的なことが行われているなんて！」と驚きと感動でいっぱいでした。ここでしか見られない景色、ここでしか味わえないもの、そしてここに住む人たちの暮らしの営みは上市町の誇りであり宝です。今後も私たちは上市町の魅力をグッと掘り下げていきたいと思っています。

きっと、あなたも。

RE:DISCOVER
KAMIICHI



KAMIICHI
TOYAMA, JAPAN

発行：上市町観光協会

TEL/076-472-1515 WEB/kami1tabi.net

取材・文/居場 梓 撮影/利波由紀子 デザイン/GATHER AROUND